



すいがい なん 水害って、何なの

みず ひ お さいがい 水が引き起こす災害

たいふう が 日本にやってくる季節になると、テレビで、現場のようすが報道されますね。大水が出て、家が水につかったり、イネなどの農作物が水につかったりして、大きな被害が発生しているようすがわかります。

このように、台風やごう雨などによって、大量の雨が降ったのが原因となって、生じる災害を「水害」といいます。

水害には、洪水、しん水（水びたしになること）、かん水（田畑や農作物が水びたしになること）、土石流（雨水に混じって、山のしゃ面を流れ落ちる土や石の流れ）、山くずれ、がけくずれなどもふくまれます。

洪水、しん水、かん水などは、平野部の川の流域に多く、しん水やかん水には、高潮や津波による場合もふくまれます。

日本のおもな川には、ダムが建設されたため、洪水が減ったのですが、中小河川の洪水は増えていきます。

都市では、道路がほ装されていることや、下水道が整備されているために、強い雨が降ると、一気に、雨水が中小河川に集まります。そのため、あふれ出た水によって、沿岸部の住宅がしん水することが多くなっています。

かぜ みず ひ お ふうすいがい 風と水が引き起こす風水害

台風やたつまきなどによる、風害と水害をいっしょに受けた場合に、「風水害」といいます。風水害は、台風におそわれたときに起こることが多く、風害が起こってから、少し時間がたってから、水害が起こるのがふつうです。（監修・保岡 孝之）

